

欧州の図書文献の流れから見る科学技術史

—建築書「歴史的建築の構想」の資料検索を通して—

日時：平成30年10月10日（水）13:30～15:00（13:00開場）

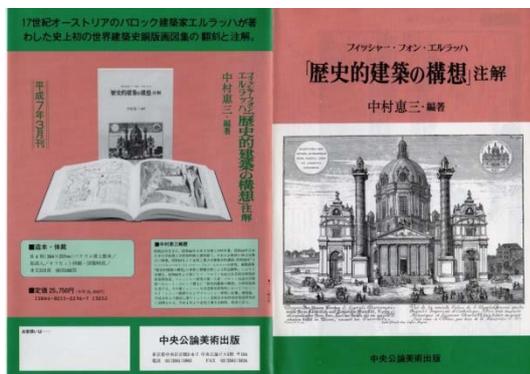
会場：足利大学本城キャンパス 月見ヶ丘ホール

定員：100名（事前申し込み不要） **入場無料**

講師：足利大学名誉教授 中村 恵三 先生

講師略歴：1983年オーストリア・バロック建築家「J・B・フィッシャー・フォン・エルラッハ」の形態分析による作品解釈により工学博士。その後ドイツ・オーストリアの研究機関で、フィッシャー研究を重ね多数の研究論文を刊行。1973年に足利工業大学へ入職以来、2017年に退職するまで、ベルリン自由大学美術史研究所客員研究員、ミュンヘン大学美術史研究所客員研究員、ウィーン工科大学建築学研究所客員研究員を歴任。1998年から2015年まで宇都宮大学客員教授。現在、足利大学名誉教授。

本講演は、2017年度「私工大図書館連絡会」（首都圏11校の工学系私立大学図書館組織）第40回図書館長会議での講演（於東京理科大学葛飾キャンパス）と2018年度「日本技術史教育学会」研究発表会・総会の特別講演（於上智大学四谷キャンパス）を基にしています。内容は、欧州の科学技術の歴史をその原点からルネッサンスに至るまで、欧州の図書文献の流れを通して追った概説です。また最初の世界建築史と言われている18世紀のオーストリア建築家フィッシャー・フォン・エルラッハの建築書「歴史的建築の構想」のヨーロッパ、及び日本での図書文献資料検索の体験についてお話します。テーマの科学技術の歴史概説については、源流のギリシャの科学がビザンチン帝国からルネッサンス期に欧州に伝わったという歴史観が一般的ですが、しかし図書文献の流れから見ると、ギリシャの科学文献は7世紀頃からペルシャに渡り、その地で国家事業として200年間、キリスト教ネストリウス派によって大半がシリア語に、さらにアラビア語に翻訳・注釈され、インドの影響がおよび「イスラム科学」が成立し、その後このイスラム科学は12世紀にコルドバ、トレド、パレルモ等の経由でラテン語に訳され欧州に伝えられたという事実についての概説を紹介し、更に今回、このネストリウス派と日本との関係、及び足利の町の成り立ちとの接点についても触れます。



中村恵三先生編著「フィッシャー・フォン・エルラッハ『歴史的建築の構想』注解」、中央公論美術出版、平成7年刊。中央公論美術出版の紹介パンフレット

足利大学教養講座

「真理は人を自由にする」という考え方のもと、足利大学では高等教育機関の教養教育を広く市民の皆様に提供することで、地域に貢献する知の拠点づくりを目指しています。人文科学、社会科学、自然科学、芸術など、リベラルアーツをテーマとして、月1回程度の講座開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

主催：足利大学

後援：足利市、足利市教育委員会

問い合わせ先： 足利大学 法人本部 ☎0284(62)9981